



在家中だより

No. 468 令和6年5月1日(水)

川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <https://zaike-j-kawaguchi-saitama.edumap.jp/>



・心身ともにたくましい生徒
・自ら進んで学ぶ生徒
・豊かな情操を培う生徒

これからの学び 「個を活かし、協働する」

校長 鈴木 玲

新年度がスタートして1か月が経とうとしています。毎年、年度の終わりには「4月から、どのような学校づくりをすべきか」、時間をかけて考えます。「今、学校教育に求められていることは何か?」「昨年度、足りなかったことは何か?」など様々な視点とこれまでの反省から全職員によって、本校が進むべき道の共通理解を図っています。4月8日発行の在家中だより (No. 467) にも示しましたが、今年度の在家中中学校「目指す学校像」は昨年度から継続し、

**「夢」の実現に向かって個を活かし、協働しながら前進する学校
～ 自ら考え、行動し、社会に貢献できる人間の育成 ～**

としました。具現化のポイントは『個を活か』すことと、『協働』することです。現在の「中学校 学習指導要領」の前文には次のような文言が記されています。

これからの学校には、〈中略〉一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

つまり、今の学校には、自分のもつ優れた力と価値ある存在としての他者の力の相互を活かしながら、様々な人たちと協働して課題解決しようとする生徒の育成が求められているというのです。

個々の力を結集し、協働しながら課題解決に向かう。これが本校の進める「学びの共同体」であり、2年前から神根地区の小中9校で歩調を合わせ、取り組んでいる学びの形です。生徒同士の「学び合う関係」をもつ「学びの共同体」は、わからない時には「ねえ、ここ、どうするの?」と質問することから出発する学び合いです。苦手な教科、難しい課題もあきらめず、意見を交換し合い、時には仲間の力を借りながらも「わかった! できた!」を積み重ね、定着させていくことが最も大切なのだと思います。そして、その安心して協働できる人間関係をクラスや学年内に築き上げることこそが、全生徒の学びを保障することの第一歩だと考えます。



また、生徒の「学びに向かう力」は授業の中だけで育っていくものではありません。将来的には社会や自分自身の人生の中でこれまでの学びを活かすのですから、子供たちが力を借りる相手が当然、家族であったり地域の方々であったりもします。ぜひ、今、私たちが推進しようとしているこの学びの形にご理解をいただき、保護者・地域の皆様と一緒に子供たちを育てていきたいと考えておりますので、ご協力をお願い致します。